



大阪女学院大学

教職課程開設記念 教員研修

2010年3月13日(土) 於 本学

テーマ：「論理的思考力や表現力を高める英語授業のデザイン」

去る3月13日、本学にて、大阪女学院大学教職課程開設記念教員研修を行いました。21名の受講申し込みがありましたが、前日と当日に4名の方から急用で欠席の連絡をいただき、17名の参加者でアットホームな雰囲気です実施いたしました。4コマの研修内容の一部概略と参加いただきました先生のコメントや日頃の授業で感じておられること(これからの課題)を紹介します。

■ 研修のねらい

高等学校新学習指導要領(外国語)では、コミュニケーションを一層意識させる科目が設定されています。情報をどう受け止め、どのようにレスポンスするかがコミュニケーションとしての英語力育成の基本スタンスとなっています。ここに求められているのは思考力です。それは急激にそして多様に化する社会で「考え抜く力」が一層必要とされているからと思われます。物事を生み出し改善したりしていくには、常に問題意識を持ち課題を発見することが大切です。その上で、課題を解決するための方法やプロセスについて十分納得のいくまで考え抜く力が必要となります。本研修では、こうしたことを踏まえ、総合的な言語処理として思考力を呼び起こすリスニングの授業、英語と日本語の違いを意識し論理的な思考力を育成するリーディングの授業、英語表現としてのライティングをどのように構想するかなどに焦点を当て、授業デザイン力を再考する実践的な研修を行いました。

■ 研修概要(概略紹介)

「思考力を呼び起こすリスニング授業の基本構想」

本学 教授 東條 加寿子

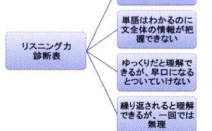


【要点】

- リスニングは時間軸のある情報処理過程と捉えることができる
- 情報処理の負荷を軽減する方略が必要である(順送り理解、予測性・「こころの情報」の稼働)
- 情報を構造化していくことは、とりもなおさず思考することである

それでは、リスニングのどこでつまづいているのか?

Diagnosis



藤田順子他(2000)『英語リスニング・クリニック』研究社

情報処理過程としてのリスニング

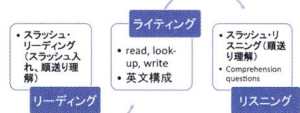
- 音声は不可逆である
- 内容理解の時間と順序が定められている
- 効率的な内容理解が求められる
- 頭からの順送り理解が不可欠
- スラッシュ・リーディング/スラッシュ・リスニングのすすめ

Sight Translationの薦め

- スラッシュで区切られた句を目視し、その部分から情報を取り込み、理解した内容を日本語にしながら読み進める
- 言語化することによって理解の度合いを確認することができることも、集中力が高まる



教材の総合的活用



「思考力を高めるためのリーディング授業の基本構想」

本学 教授 中井 弘一



【要点】

- 思考力を高めるリーディング授業の設計方略は、教材のおもしろさを見つけ、教材の根底にある主題を理解し、考える力を育成するための interaction (問いかけ) を通して展開する授業を設計することである

1. 教材の読み込み

- テキストのタイプ
- テキストが伝えたいメッセージとキーワード
- 豊かな英語表現・日本語とは異なる英語らしい表現
- 筆者の意図・感情が伝わる表現
- テキストの論理構成
- テキストのアウトラインマップ
- 題材に関する情報の収集
- テキストの類似英文、反対の考えを持つ英文の収集
- 挿絵や写真の理解
- グラフや表の理解と補助資料
- 導入のための補助資料

2. 指導目標・指導項目の設定

- 生徒に何を学ばせたいか
- 読解力としてどのようなことをチェックするか
- テキストの何を理解することが大切か
- 機能文法からのリーディング 語・語法・文法表現
- content-based understandingからみたテキストの理解

言語活動の基本的アプローチ



Let's start with this one. This photograph was taken by an American photographer, the O'Donnell, in Nagasaki in 1945. He recently spoke to a Japanese interviewer about this picture:

"I saw a boy about ten years old walking by. He was carrying a baby on his back. In those days in Japan, we often saw children playing with their little brothers or sisters on their backs, but this boy was clearly different. I could see that he had come to this place for a serious reason. He was wearing no shoes. His face was hard. The little boy had one tipped back as if the baby were fast asleep. The boy stood there for five or ten minutes. The man in white moccasins walked over to him and quietly began to take off the rope that was holding the baby. That is when I saw that the baby was already dead. The man held the baby by the hands and feet and placed it on the fire."

"The boy stood there straight without saying anything" - watching the flames. He was biting his lower lip so hard that it ached with blood. The flames burned low like the sun going down. The boy turned around and walked slowly away."

思いがけないことは

何を強調しているか
文章全体が伝えたいことは何か

写真家の心情が分かる文はどれか。
少年の心情が分かる文はどれか。
どのような気持ちでいるのか

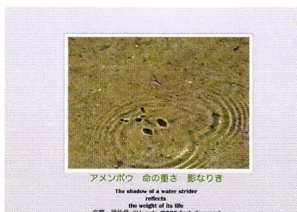
何を感嘆させるか

何を感嘆させるか
何を感嘆させるか
何を感嘆させるか

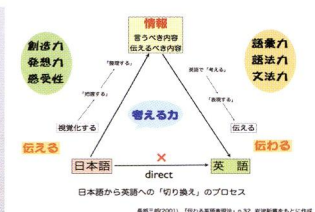


「伝える・伝わる英語表現活動としてのライティング指導の基本」

中井 弘一



アメンボウ 命の重さ 影なりき
The shadow of a water spider
the weight of life
影法師 詩集、Shadows (2006 Early Summer)



「ライティング指導におけるコーパス分析活用の基本的な取り組み」

東條 加寿子

話し言葉	書き言葉	書き言葉と話し言葉の出現頻度
1 be	1 the	
2 the	2 of	
3 I	3 be	
4 you	4 to	
5 and	5 and	
6 it	6 a	
7 to	7 in	
8 have	8 have	
9 a	9 he	
10 not	10 it	

出現数	特徴	単語
代名詞 18	接続語	it, I, you, he, they, she, etc.
動詞 16	基本動詞	be, have, do, say, go, etc.
副詞 15	接続語	not, there, out, up, so, etc.
前置詞 13	接続語	of, in, to, for, on, etc.
限定詞 11	接続語	this, that, which, what, all, etc.
接続詞 9	接続語	and, that, but, or, as, etc.
助動詞 6	接続語	will, would, can, could, should, etc.
名詞 4	内容語	time, year, people, way
形容詞 4	内容語	last, other, new, good
冠詞 3	接続語	the, a, an